（郵信省認可）　（本號四面）　明治二十二年九月三十日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千四百二十八號
明治廿二年九月三十日　月曜日
當暦巳亥九月六日　（己、酉）
月出午後五時三十六分　日出午後六時二十五分
月出午前十時四十六分　日入午後六時四十五分
滿潮午後九時等一分　滿潮午後八時二十五分
干潮午後八時四十五分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報

鐵道業に對する政府の機宜

兼て本紙上に報道せし如く全國各鐵道會社員は過般來東京に會合して鐵道用地課稅の事及び土地收用法の事を評議し昨今其評議も終りて政府に請願する所ありと云ふ而して其請願主旨の要領に就ては一昨日の時事新報雜報欄内に記載する所ありされば讀者は定めて其得失を判斷し得て分明なるべしなる可し凡そ文明諸國にては其鐵道の官私設を問はず概して之を國道と見做し線路の延長するに隨つて鐵道即ち國道たるの實はなす〳〵分明なる次第にして我國にても彼の官設鐵道用地の如き道路と地種を同うして一切の租稅を免ずるの法則ありて此點に於ては官私聊かも區別ある可らざる筈なるに然るに近來政府にては私設鐵道の用地に就き地方稅徵收の手續を踏まんとして既に其端を開きたる向きもありと云ふ即ち全國鐵道會社員が今度東京に會合して其鐵道用地に對し諸稅免除の議を呈する所以にして名正しく事順に政府も直に此議を納れて鐵道の官設と私設とを以て其間に厚薄を生ずるが如き偏法は速に之れを去るべしとならん誠に簡單明白なる事柄なれども第二土地收用法の一難に就きては今日社會の事情に於て法理一偏に論ず可らざるものあるが如し蓋し政府は人民の威望を重んじ商工殖産一切の事成る可く其干渉の手を封じて人民自由の働きに任ずると肝要にして入らざる世話の煩はしきは以ての外の事なりとは我輩の毎度勸告する所にして彼の土地收用法に據れば從來鐵道會社の用地なるものは共民有に係るものは公用土地買上規則を以て一旦政府へ買上げの上更に各會社へ拂下げたるものを今後は土地所有者及び其關係人と會社自から篤議して直接に之を買受しるの任向あるが故に鐵道用地買受は既き政府は干渉の勞を省き之を人民の手に引渡したるものにして悟も彼の無干渉の道を得ひ外面上一應尤も千萬なるが如くなれども然れども我が鐵道事業たる今尚甚だ幼稚なるして近來官私鐵道線路延長の速力は頗る迅疾なりと申しながら全國鐵道を合計して昨今僅に一千英里を達しさる位の事なれば國家交通の便利の爲め鐵道の速成を願望する者は官民彼此の區別なく唯ろの速成の道を講じて敢て餘念なかる可き筈にして此間各鐵道會社の便利を謀りて成る可く周旋盡力するは即ち政府の機宜なりと云ふ可し我輩今土地收用法に關して鐵道業者の說なりと云ふを聞くに元來鐵道の用地たる延て數縣數國に跨がり各種の土地を貫きて成る可く直線に進むが故に其線路に當る土地所有者並に其關係人は幾千萬を以て算ふべく官廳所轄の土地畫帳等を繰返すは非ざれば其住所姓名を知ること能はざるやうの始末にして此人々を呼び集めて土地收用の協議を遂げ愈々之を收用し得るに至るまでには人民相互の間柄に於て實際速辨の見込みなく鐵道事業上無量の手數と時間とを費して其工事の遲滯を見ると必然あれば鐵道用地は是れまでの通り一旦政府へ買上げて更に之を各會社へ拂下ぐるやう致したし云々と云ふに在るものゝ如し如何さは今日の實際に於ては多數人民と相對して何の用事を辨ずるも當り官私其遲速を異にするの趣あるは蔵ふ可らざるの事實ふして孫して其理由を究むるときは所謂官尊民卑の餘大に其間に働くを見るべく例へば土地收用は關して土地所有者及び其關係人を便宜の場所に招くに當り官用とあれば早速來會、人民相互の間柄とあれば強て之を督促するも時に及んで容易に來會せざるあるどの事情もあらん誠に苦々しき次第ふして斯る卑屈なる弊習は行く〳〵之を撲滅せざる可らずと雖ども官尊民卑習を爲して今日只今鐵道用地を買上ぐるに官の手を以てすれば事務遲辨の便利ありとすれば鐵道事業の重きふ對して先づ其便利の道ふ因らざるを得ず左おきたに我が政府は夙に鐵道業を奬勵して之を保護するの注意至らざる所なく或る鐵道會社の爲めふは其營業上益を保證して政府自から其安危の責に當りたるものさへあり政府が鐵道の官私を問はず之を奬勵保護するの厚心は實に此くの如くふして而して此厚心は全國僅々一千英里の鐵道を得たる今日をも以て消滅す可しとも思はれざれば前心を以て後意を推し苟も我が鐵道業の便利とあれば政府は敢て其周旋盡力を辭するものふ非ずと斷言するも可ならん即ち今我輩は全國鐵道會社員が今度評決請願したる條條は早晩政府の承認する所となる可しと信ずるが故に鐵道會社員も亦我が政府の盛意を體してます〳〵其事業の發達を謀り國家文明の進歩の爲めに鐵道の一刻も早く一尺も長く竣工せんことを期して之れに答ふるの覺悟なかる可らざるあり

雜報

○造酒の增加　酒は情緒を亂り人身を害し有りて益なき物なれば斷然社會に其跡を絕たしむべしとの議論は數年來漸く勢力を得て一滴だも嚴禁したる物慾き禁酒會も起れば少しは保養の端ともなるべし多量は害ありとて中道を行く節酒會も頗れ剛と柔とに手を替へ品を換へて釀造を押へ付け計略は拙と云ふはあらねども今の世の人情の薄弱ある到底其目的を達し得べくもあらずして年々醸酒の石數は增加し少々の課稅ありとも思はれざる程にて明治元年より今日に至るまで最も釀造の多額ありしは十五年にして其高五百六萬三千二百餘石に達し其後は徐々ふ下向きて二百六十萬石迄に降りたれども之には別ふ仔細のあるみとふて十三年より十四年に掛け流通紙幣攝も多く米價騰貴して商賈活潑を極めたる折柄なれば需用の多きを氣に構へて斯くも釀造の增加したるふ十八年に至り二百六十石に減少したるは銀紙の整理愈々其緒ふ就き米價下落して商況前日の如くあらざりしに因由するものあるべし左れば其後は又々物價の上進と共ふ增加の一方ふ傾き昨年の如きは三百六七十萬石の多きに至り爲めに政府は豫算より三百萬圓の增稅を見るに至りたるよしにて本年は米價愈々騰貴して商況活潑の狀勢なれば昨年に比すれば又々幾分の增額を顯はすに至るべしと云へり

○清國の大鐵道　過日の紙上に記せし如く清國ふては愈々北京の近傍蘆橋溝より漢口までの大鐵道を敷設するに決したる由なるが去る二十日上海發の報ふ據れば去月二十七日清帝は醇親王を督辨鐵路大臣ふ、李鴻章、曾紀澤、張之萬、福銀の四氏を總辨鐵路大臣ふ、又周玉山、潘駿德氏を幫辨鐵路大臣に夫れ〳〵任命し南北の兩端より次第に着手する事と定りしかば人々皆清政府の果斷ふ驚く有樣なり今其詳細を記さんに南方鐵路の起點は湖北漢口にして夫れより河南淮寧府鄭の信陽州に達し北方は京西彰義門外の蘆溝溝より始めて直隸正定府一帶に至るまで數省を横貫し之を四大工區ふ分ち京より正定に至る迄を第一とし夫れより黃河北岸又は信陽に至るを第二、第三とし又夫れより漢口までを第四結局となせり就ては先づ工事の費用として清銀一千六百萬兩を要する譯なれども目下の有樣にては到底國庫より支出する能はざるべし左れば之を外商に借るか然らざれば內國債を起さゝるを得ず李鴻章伯は何れの方を擇ぶかと尋ねれば多分內國債ならんと愚はるゝ次第は他にあらず是迄伯の實行したる政策を見るに輸船招商局平糶局電信局等を起すには何れも先づ官金を以て着手し略ぼ成立つに及んで之を株金とおし商人に讓り渡して其集金を官に上納せしむるを得意とするが故に今回も奬勵の法其宜しきを得れば人民の信用も厚く資本の出途も確かあるべし偖同工事に必要なる機械等は其注文を一手に引受けんとて騷ぎ居りと云ふ

○遺族へ贈與金　去る十一日の暴風雨に際し沼津近傍にて汽車轉覆し爲めふ非命に斃れたる車長上野作藏氏の遺族へ鐵道局より金五十圓及び同局員一同より金百圓を此程贈與したりと

○諸製造所巡視の結果　大坂府ふ於ては過日來工學師廣井恒久氏を派出して各工業場を巡視せしめ學理的に不適當ある製造物等は親しく說諭ふ來りて事ふ着手せし以來大に其功を奏し昨今に至り時々該師の出張を出願する者もあるよしなり

○獸醫開業試驗　關西東山道地方獸醫開業試驗主事として大坂岐阜へ出張中なりし東京農林學校の勝嶋教授は去る廿七日歸京したり右の復命に據れば大坂にては廿六名の受驗者中にて四名及第岐阜は九名にて殘らず及第せりと又奧州地方獸醫開業試驗主事として福嶋秋田の二縣に出張せし三浦農商務技手も同日歸京せり福嶋にては受驗者四十名の內及第者七名秋田は三十名の中同三名なりと云ふ

○四百三十七人連名の廣告　土佐には舊自由黨と舊帝政黨とありて其軋轢甚ざしく從て兩派の機關たる土陽高知の二新聞紙上にも其軋轢反目の狀映出し一見人をして黨派心の固滯なるに感服せしむる程にて廣告の欄內に雜報の部門ふ近來益々其記事多きを加へしが去る廿二日の土陽新聞（舊自由派の機關）に四百三十七人連名にて左の廣告をなしたり

反對派の著拙者等を逐ひ同派に加擔せし抔と謗書し其の虛勢を張ると雖も拙者等は元來自由主義を贊成し大に同主義に盡力し彼反對派に當するの謂れ之れ無きふ付其無のあり

明治廿二年

○學區會　芝區ふ開くといふ

○一日の賽錢一りしと彼岸の中より集ひ來れる額寺の如きは參錢は一萬二千八

○京都西陣に於は西陣の各織屋本年は紀州地方の各織物ふ文續々あるも文廻し來るに付地木綿織等に從下二百餘戶の職其製織ふ從事せ如きも是迄中等引上げたるよし隨つて該製造業故本月初旬頃頗る下落せしと

○生絲の輸出各商館より一

百三十三	俵
九十九	
九十六	
六十二	

○三部合併相撲　備が興行人とな社前にて東京京地打揚の第京都一夫より再び大爲す都合なりと

米國の

第廿五

甲乙兩地の間をある事なれば殘時書記は此方を丁線かと問ふ其なれば中々以て方例へばシカゴ一寸ふり向きて一は亂れを取るか返せばと早日も其記を聞き合はん方ふ向きて土着の人は此も土着の人はすの外ふし總てとながら上下も均しく讀遲對して無學を傾する汽車に始く喫烟室もなく